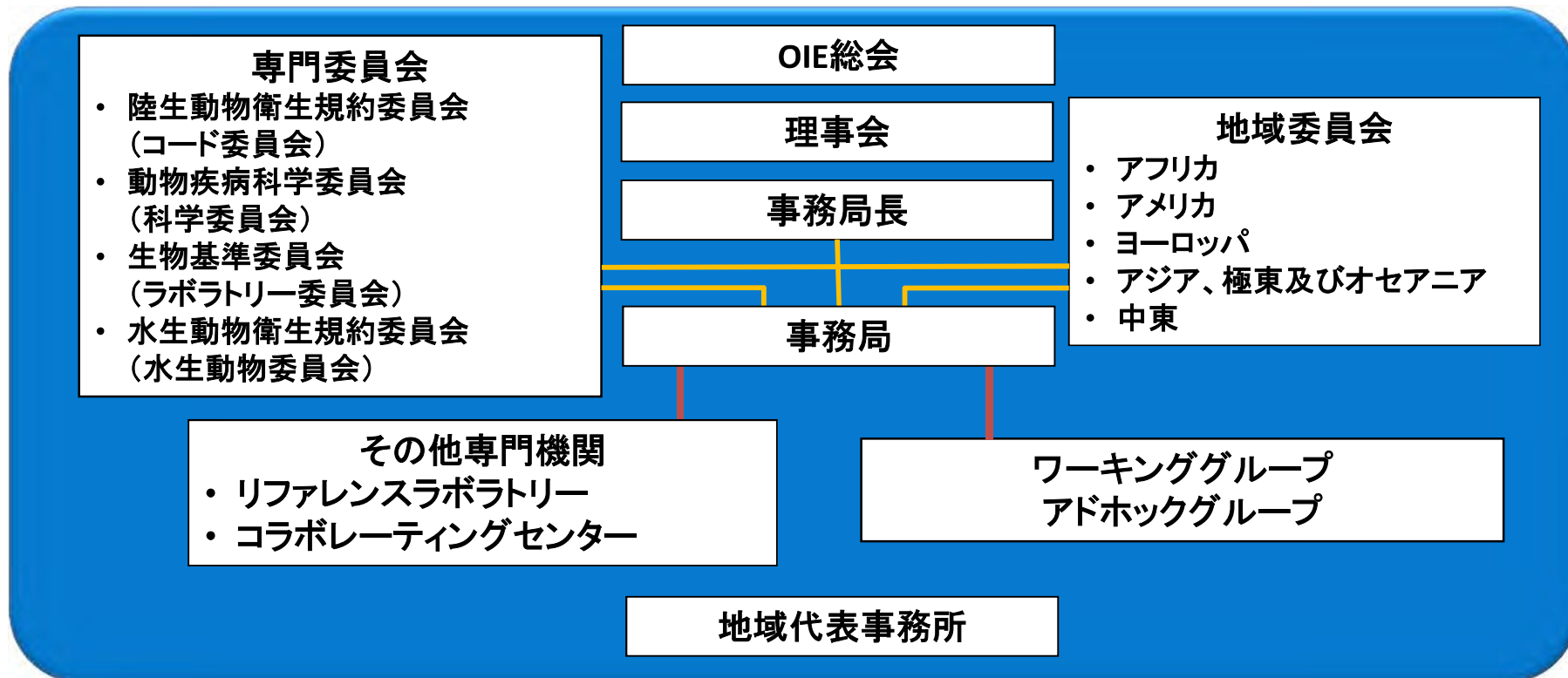


国際獣疫事務局(OIE)について

OIE=Office International des Epizooties(仏)
(= World Organization for Animal Health(英))

- 20世紀初頭の牛疫の世界的な広がりを背景として、1924年に28か国の署名を得て発足した、世界の動物衛生の向上を目的とした国際機関
- 本部はフランス・パリで、178か国・地域が加盟(平成25年5月現在)

【OIE組織図】



OIE BSEリスクステータスの概要

- (1) OIEは、BSEのリスク評価基準やBSEリスクに応じた貿易可能物品等を定めたBSEコードを策定
- (2) その中で、各国のBSEリスクは3段階に分類
- (3) OIEは、加盟国からの申請に応じ、各国のBSEリスクを科学的に評価 (2007年～実施)

● OIEのBSEリスクステータス

(日本の状況)

- **無視できるBSEリスクの国** ← 2013年5月28日認定
- 管理されたリスクの国 ← 2009年認定済み
- BSEリスクが不明の国

「無視できるBSEリスク」の国のステータス認定の意義

- 我が国の牛におけるBSEの発生リスクが無視できるレベルであることを国際的に認定。
- ⇒ 我が国のBSE対策の妥当性・有効性が国際的に証明。

「無視できるBSEリスク」の国のステータス認定に向けて



2012年9月28日、OIEへ申請書を提出。
(2013年1月に「無視できるBSEリスク・ステータス」の認定要件(注※)を満たす)



2012年11月 BSEに関する専門家(アドホック)委員会(評価)
2013年2月 科学委員会(評価)



2013年5月 OIE総会(我が国のBSEステータス 決定)

(注※)「無視できるBSEリスクステータス」主な認定要件

- 「過去11年以内に自国内で生まれた牛」でBSEの発生がないこと。
(国内のBSE感染牛: 2002年1月13日生まれの牛が最後)
- 有効な飼料規制が8年以上実施されていること。(2001年10月以降継続)
- 有効なサーベイランスが実施されていること。

BSEリスクステータスの主な認定要件と認定国 (2013年5月現在)

ステータス	サーベイランス	リスク低減措置	認定年及び認定を受けた国名
無視できる リスク (19か国)	5万頭に1頭のBSE 感染牛の検出が可 能なサーベイランス を実施	① 過去11年以内に 自国内で生まれた牛 で発生がないこと ② 有効な飼料規制※ が8年以上実施され ていること ※反芻動物由来の肉骨粉等 が反芻動物に給与されない	～ヨーロッパ(7カ国)～ フィンランド、スウェーデン、アイスランド、 ノルウェー、デンマーク、オーストリア、ベルギー ～アジア(2カ国)～ シンガポール、インド ← (平成25年5月 認定) ～オセアニア(2国)～ オーストラリア、ニュージーランド ～南北アメリカ(8カ国)～ アルゼンチン、ウルグアイ、パラグアイ、チリ 、ペルー、パナマ、ブラジル、コロンビア
管理された リスク (30か国)	10万頭に1頭のBS E感染牛の検出が可 能なサーベイランス を実施 (注)サーベイランスの評価 はポイント制になっており、 BSE感染リスクが高い牛ほ ど、評価ポイントが高い。 (臨床症状牛>事故牛> 死亡牛>健康牛)	有効な飼料規制※が 実施されていること ※反芻動物由来の肉骨粉等 が反芻動物に給与されない	～ヨーロッパ(23カ国)～ スイス、キプロス、チェコ、エストニア、フランス、 ドイツ、ギリシャ、ハンガリー、アイルランド、 イタリア、ラトビア、リトアニア、ルクセンブルク、 マルタ、オランダ、ポーランド、ポルトガル、 スロバキア、スロベニア、スペイン、英国、 リヒテンシュタイン、クロアチア ～アジア(3カ国)～ 日本、韓国、台湾 ～南北アメリカ(4カ国)～ 米国、カナダ、メキシコ、ニカラグア